

平成 20 年度第 2 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 21 年 2 月 24 日（火） 10:00 ～ 12:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- ・九津見幸男委員 ・市村勝義委員 ・渡辺美津子委員 ・佐藤ハツエ委員 ・森川澄子委員
 - ・遠藤 忠委員(会長) ・沼尾順市委員 ・片浦康法委員 ・若林秀世委員 ・入江尚見委員
- (事務局) 緒方 秀徳課長補佐, 塩田雅明所長, 樋山順一副所長, 稲澤正明指導主事

○公開 (傍聴者の数 0 人)

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題

(1) 報告事項

① 平成 20 年度事業報告について・・・資料 1

ア 学校受入事業

イ 主催事業

ウ 利用状況

事務局 : (資料にそって説明)

議 長 : 報告事項の①について説明をいただきました。ここまででいかがでしょうか。

市村委員 : 一般公募事業の中で、家族ふれあいキャンプ①では、申し込みが 38 家族 (143 名) で、参加が 19 家族 (64 名) となっています。申込者数と参加者数が大きく違う理由を教えてください。

もう 1 つ、子どものもりフェスティバルの来園者数が約 1400 名とありますが、駐車場の確保はどのようにしたのですか。

事務局 : 主催事業全般に言えることなのですが、たくさんの申し込みをいただき嬉しい限りなのですが、施設のキャパシティーの問題から定員を設け、抽選を行っています。フェスティバルの際の駐車場の確保については、下の駐車場以外に園内にあるアスファルトの道やその他のスペースに、職員の誘導の下に駐車していただいています。

佐藤委員 : 家族キャンプでは、テントに宿泊する際に家族ごとにテントを使用するのか、それともいくつかの家族で一緒に使用するのでしょうか。

事務局 : 原則家族ごとに使用してもらっています。理由としては、初対面の家族どうしが一張りのテントを使用した場合くつろげるのか。と言う問題と、テレビもゲームもない中で、家族でテントに宿泊することで普段以上に家族の会話が増え、絆がさらに深まるのではないかと期待しているからです。

また、先ほどの施設のキャパシティーの話題に戻りますが、常設のテントは全部で 15 張りほどしかなく、それ以外はテントを張って対応することも抽選としている大きな理由です。

福田委員 : 現在子どもたちが持っている、ゲームや携帯電話が子どもたちの成長に悪影響を及ぼしていると言う指摘もあるようですが、冒険キャンプの参加者にこのようなものを持ってくる子どもはいるのでしょうか。

事務局 : 事前に配付する資料では、活動に不要なものの持込はしないよう呼びかけています。参加者の荷物検査をしているわけではないので正確には把握できておりませんが、参加者が、携帯ゲーム機で遊んでいる姿を見たことはありません。また、携帯電話については、ゲーム機と同様、活動中に使用している様子を見たことはありませんが、解散後に保護者に迎えに来てもらう連絡手段としての使用を見たことはあります。

福田委員 : 一般利用アンケートのまとめの中で、レストランで食事を食べなかったり、野外炊飯の食材を利用しなかったりとありますが、どのようなことなのでしょう。

- 事務局 : こちらのルールとして宿泊者をお願いしていることがあります。こちらで過ごしている期間中は、レストランで提供されるものを食べる場合は全てレストランの食材を口にすること。また、食材を持ち込む場合は、全て持ち込んだ食材を食べること。このようなルールを守っていただくことで、万が一、食中毒等の食品の事故が起きた場合に責任の所在をわかりやすくしています。そこで、宿泊者の中にもレストランを利用しなかった方がでてくることとなります。
- 森川委員 : 今までに、利用者のマナー等で困ったことはありますか。
- 事務局 : はい。夏休みの一般利用で、炊飯場利用者が夜遅くまで騒ぎ、常設テント宿泊者から苦情が出たことがありました。
- 沼尾委員 : ここの施設の性格上、利益を第一にという考え方はそぐわないと思うのですが、それでも今年度、収入が増えた理由はどんなことが考えられるのでしょうか。
- 事務局 : 利用人数については昨年度とあまり変化はありません。しかし、宿泊者人数が昨年度より大きく伸びておりました。では、なぜ宿泊者人数が伸びたのかと言うことですが、あくまでも推測です。県立の自然の家の閉鎖や家族のレクリエーションを近場で、またあまりお金をかけずに、などの考え方が要因なのではないでしょうか。
- 沼尾委員 : 現在、テントサイトで行われている工事の内容を教えてください。
- 事務局 : 今までテントを張る場所には、高床式のような木材でできたデッキが設置されていました。その老朽化のための改築工事です。
- 若林委員 : オープン 13 年目を向かえ、アンケートにある「ロッジへの階段が歩きにくい」等の施設の老朽化が原因と思われる問題を抱えていることと思います。そのようなことへの対応策をお聞かせください。
- 事務局 : ロッジへの階段の補修工事ですが、昨年度一部改修工事を行い、来年度ふたたび未補修部分の工事を行う計画です。また、今年度はつり橋の塗装工事を行いました。今後も引き続きできるところから行っていきたいと考えています。
- 佐藤委員 : 以前子どもたちを引率してきたときに、勇気の洞窟内の道に水がたまっていたことがありました。こちらも対応していただければと思います。
- 福田委員 : 最近地産地消とよく言われていますが、レストランで提供している食材はいかかなのでしょうか。
- 事務局 : レストランの委託業者は現在イートランドとなっています。こちらから地元の食材の使用について話をしたことがありますが、会社として独自の仕入れルートが確立していることや仕入れ値の問題から実現には至っておりません。また、レストランで扱っている食材の中で、地産地消といえるものの割合についても今のところは把握しておりません。そんな中で、私たちが計画立案する主催事業で、地元の食材を使用した野外炊飯を組み込むなど、できる範囲での地産地消に取り組んでいます。
- 福田委員 : 県外からの利用者も多いようなので、ここならではのメニューがあると利用者も楽しめるのではないかと思います。
- 九津見委員 : 資料の団体種別利用状況の中で、企業や行政機関の利用があるようですが、こういったところが利用されているのですか。
- 事務局 : 企業では、新人研修に利用されています。ある企業は不動前の辺りからここまで徒歩で来ています。行政機関の代表としては宇都宮市の初任者研修です。1泊2日のプログラムの中でイニシアティブゲームも取り入れられています。初任者からは好評だと聞いております。
- 森川委員 : 学校利用の活動で、例えば薪を園内で集めて、それを使用しての野外炊飯など面白いと思うのですが、そんな取り組みをすることもあるのですか。
- 事務局 : 今までは、委託業者から提供された薪を使っての野外炊飯でしたが、園内から自分たちで薪を集めて使用することもフィールドを生かした興味深い活動になると思います。今後検討していきたいと思います。

② 平成 21 年度事業計画について

ア 学校受入事業

イ 主催事業

事務局 : (資料にそって説明)・・・資料 2

議長 : 報告事項の②について説明をいただきました。ここまででいかがでしょうか。

渡辺委員 : 前回の会議での意見を反映していただきありがとうございます。2・3月のエンジョイサタデーの計画について持ち帰り、子ども会に情報を流したいと思います。

若林委員 : パネル展を開催するにあたり、事前の資料収集等職員の努力がうかがわれます。今後も様々な工夫をこらしながら主催事業に取り組んでください。

事務局 : 宇都宮市では日本一と誇れる事業についてPRを進めています。全国を見渡しても中核市の中で、本市の冒険活動事業のような取り組みはありません。来年度、本市の日本一事業の1つとしてPRを進めていく計画があります。

沼尾委員 : 私たちも学校の活動の中で、農産加工所でのうどん打ちについてお手伝いさせていただいております。食材を提供する際に、地元産ということだけでなく、全ての食材で生産者がわかるような取り組みを進めて行きたいと考えています。

福田委員 : 日光街道からこの施設への看板が非常にわかりにくく見落としがちです。市が日本一事業として掲げるのであれば、なおさら看板について検討していただければと思います。

片浦委員 : 日光街道については、景観等の理由から条例があり、制限があるようです。

佐藤委員 : 入り口の大きな看板に、平成記念子どものもり公園とありますが、私たちにとっては冒険活動センターの方がなじんでいるような気がするのですが、名称の違いは何なのでしょう。

事務局 : 敷地全体の公園を「平成記念子どものもり公園」と呼び、それを管理運営しているこの管理棟が冒険活動センターとなっています。

(2) 協議事項

① よりよい冒険活動事業をめざして・・・資料 3

事務局 : (資料にそって説明)

議長 : 協議事項について説明をいただきました。全体で、または冬場の一般利用についてご意見がありましたらお願いします。

市村委員 : 先ほどの主催事業の家族キャンプについて、参加者が自分たちでテントを持ち込むことによって受け入れ人数を増やせるのではないのでしょうか。

事務局 : テント以外の施設の収容人数との兼ね合いもありますが、まず宿泊場所が確保できるので、定員を増やせる可能性があると思います。今後検討していきたいと思います。

私たち職員も、組織も自分たちのことは意外とわからないので、このような機会にたくさんの方々からご意見をいただけたことを嬉しく思っております。今後の運営に役立てて行きたいと思います。

片浦委員 : 冬ならではの活動を考え、地道に行っていくと、1回の参加者は多くなくても定着していくことと思います。

議長 : 今後、新しい学習指導要領が実施されますが、その中には自然体験学習の重要性が示されています。実施期間だけを比較しますと、ここの施設以上に長期の集団宿泊体験を実施している市もあります。しかし、ここでの自然体験活動が学校生活にどのように関わるかについて学校の先生と一緒に考え実施する宇都宮市のシステムは、全国的にみても極めてまれであると思います。

他になければ以上で協議事項を閉じたいと思います。

事務局 : 以上をもちまして、第2回冒険活動運営協議会を閉会いたします。